

## 1. 築地市場再整備アイデアの概要

本アイデアは、築地市場を運営しながら改築するためのアイデアを提案するものです。そのためにつぎの項目を前提とします。

- ( 1 ) 改築した建物は、平屋か 2 階建てまでとする。
- ( 2 ) 改築した建物の構造物には、重量物を載せない。

上記の 2 項目を前提とすると、築地市場の建屋の基礎は通常の日本家屋と同様のものでよく高層ビルの基礎のように深いものは必要ないこと、また建物は軽量鉄骨でよく屋根および壁は簡易的な材料によるもので建設可能であり、多くの機械製造物の製造工場と同様の建物が構築できればよいと考えます。

このような建物が市場を運営しながら建てることができるかどうかについて述べます。この工法を述べる前に、この工法を案出するのに参考となった工法について述べます。1 つは、トンネルを掘削するときのシールド工法であり、もう 1 つの工法は山あるいは谷を越えて道路を渡す工法であります。いずれの工法も、工事現場が局部的であり、その工事現場を移動することにより、結果的に広範囲な建造物を構築することができます。

したがって、築地市場の建物の端の部分に局部的に工事現場を設け、そこから改築する構造物（外部に必要な部分を組み立て済み）を順次組み立て、それを前方に繰り出します。それと同時に内側の工事現場では、中空の足場が組み立てられ、その足場を使って既存の建物を壊し回収します。この足場も順次繰り出されていきます。

したがって、足場が中空のため、その中の市場は営業を続けてゆくことが可能となります。ただし、足場のゴミなどの残存物が下に落ちないようにシートなどにより防ぐことが必須となります。

## 2. 建築物を順次繰り出す方法について

建築物を順次繰り出すためには、小さい力で建築物を移動させる必要があります。だんだん建築が進むと相当大きな建築物を移動させることとなります。このために基礎は、レーザーレベル計により予め精密に水平に作っておくことが必要となります。また、基礎には、ベアリングで移動できるレールガイドを設けておくことが必要です。

移動する建築物の重量が大きくなると、慣性力も大きくなるので移動と停止には専門家の指導が必要となります。場合によっては、ブロックに分けて移動することも考えられます。

### 3 . 市場内の店舗・事務所について

市場内の店舗・事務所は、別製造のユニットとし、ユニットは移動できるものとします。このようにすると、ユニットは市場内を自由に移動できるとともに、見学者が多い場合はユニットのリニューアルをすることもできます。

### 4 . 建築物が曲線を含む形状の場合について

建築物が直線の場合は、レーザーレベル計でよいのですが、曲線を含むときは水管を使ったり、より高度な技術を必要とします。また、途中で断面形状が変化する場合は、さらに高度な技術を必要とします。

以上。